

# 支援機器相談シート

相談日 令和4年 10月 28日

担任名 河田 多恵子

中学部 1年

相談内容

① 相手にスムーズに会話や単語が伝わり、本人のストレスが軽減できるような支援機器はあるか。言語訓練をがんばるしか方法はないのか。

【本人の状況】

構音障害があり発音が不明瞭。日常的に、会話がスムーズに相手に伝わらないことがある。自立歩行をしているが安定しないため、iPadなどの機器を持ち歩くのは難しい。スマートフォンは、小さく指先が不器用なこともあり操作は困難である。STEF評価→右28～34左8

② 文字を書くとき筆圧が強すぎる。力を抜いて書くと、思うように書けない。何かよい方法はないか。

【本人の状況】

アテトーゼも少しあるが、失調が優位に出ている脳性まひ。文字を書くのに、大変力を込めて書くため筆圧が強い。逆に力を抜いて書くと思ったように書けない。力を込めて書くから思ったように書けないのか、それとも力を抜いて書くと書いたように書けないため、力を込めて書いているのか。滑り止めシートを使用しているが、力を込めて書くことで思ったように書けないのであれば、抵抗が少なくなるように滑り止めシートを使用しない方がよいのではないか。

相談結果

① iPadのキーやボタンを軽く短時間で押すのが難しいため、間違えて入力してしまうことが多い。メール機能の送信ボタンを押しても長めに押してしまうため反応しないことがある。

【回答】

アクセシビリティ機能を使って、タップの長さを調節する。

○設定→アクセシビリティ→タッチ→タッチ調整 ON  
→保持継続時間 ONにして0.1秒→繰り返しを無視 ON

この設定を行うことで、0.1秒でタップしないと反応しなくなる。また、手が震えるなどで何度もボタンを触ってしまっても、短いタップの繰り返しであれば反応しなくなる。

○設定→アクセシビリティ→タップ補助→タッチ終了位置を使用 ON

この設定を行うことで、押すキーを間違えても、押したまま正しいキーに移動して放すことで正しいキーのみが入力されるようになる。

- ・ジョイスティックコントローラーを使ってみると、細かい動きができる。
- ・iPadの使わないアイコンを整理したり、別のページにアイコンを一つだけ作って他を触らないようにしたりする方法もある。



②筆圧が強くなったり手が震えたりして、うまく文字が書けない。

【回答】

- ・ソファなどの沈み込む椅子より、ダイニングテーブルなどの座面がしっかりした椅子に座って書くとよい。
- ・肘を置けるような場所を作る。例えばテーブルに斜めに座って肘を置く場所を作り、肘の下に薄いクッションを置く。
- ・テーブルの高さも配慮する。
- ・iPad を使う際には、机に置く位置を体の中心より少し右寄りにする。
- ・ペンの握り方によっても筆圧が上がる。三角持ちより握りこむ持ちの方が筆圧が上がる。
- ・定規を利用してペンの滑りを押さえながら線を引いたり文字を書いたりする。



\* 滑り止め付き定規「Q スケール」